

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	現代の国語	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 年・全クラス
使用教科書	「現代の国語」（数研出版）				
補助教材等	「読解を深める現代文単語」（桐原書店） 「常用漢字ダブルクリア」（尚文出版）				

1 学習の到達目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 社会生活を円滑に営む上で必要なコミュニケーション力の基となる「言葉」の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、積極的に授業へ取り組んでください。
- 予習として必ず本文を通読し、意味のわからない語句は辞書等で調べておきましょう。内容的に疑問を抱いた点については授業内で解決し、授業後はふり返って内容を確認してください。
- 授業では「読む」「書く」活動だけでなく、「話す」「聞く」活動も行います。互いに相手が理解しやすいよう工夫を凝らしつつ自分の考えや思いを伝え合うことで、思考力を鍛え、表現力を磨くことができます。
- 国語力の伸長を図ることは、短期間で効率的にできることではありません。日頃から本や新聞を読み、活字に慣れ親しむことで、語彙力を増やし、表現の幅を広げ、豊かな日本語の力を身に付けるよう心掛けましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの 評価の観点 の趣旨	実社会での課題設定 及び課題解決につながる 国語の知識や技能を 身に付けて適切に使っ ている。	多様な他者と共に高め合 い、認め合いながら伝え 合う力を高め、自分の思 いや考えを広げたり、深 めたりしている。	言葉の価値への認識を深めると ともに、自分の考えを相手にわ かりやすく、筋道を立てて伝 え、言葉を通して積極的に他者 や社会と関わろうとしている。
主な評価方 法	・ペーパーテスト（事 実的な知識の習得を問 う問題及び知識の概念 的な理解を問う問題） の結果	・ペーパーテスト ・レポート等記述内容 ・グループでの話合いや 発表などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評 価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み状況

--	--	--	--

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	文章の構成を正確に押さえよう	「コミュニケーション能力とは何か」(内田樹) 「水の東西」(山崎正和)	5	・ 文意を正確につかむ読み方を覚える。 ・ 東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・ 要約文の作り方を理解する。	・ 文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している (a) ・ 文章の種類を踏まえて、内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している (b) ・ 授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)
5	要約のやり方を学ぼう 表現①	「感情暴走社会の由来」(山極寿一) 「ズームアップ 情報とメディア」 「情報の聞き取り方、説得力のある話し方」	6	・ 文意を正確につかむ読み方を身につける。 ・ 筆者の考えの背景についての知識を確認する。 ・ 筆者の考えを元に、自分の考えを深める。 ・ 聞くトレーニングと話すトレーニングを通して、よりよい表現方法を学ぶ。	・ 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している (a) ・ 文章の論理展開についての的確に捉え、要点を把握している (b) ・ 授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)
6	接続語に注意して論理関係をとらえよう 実用文①	「『わらしべ長者』の経済学」(梶井厚志) 「目的に合わせて表現を工夫する」	6	・ 文意を正確につかむ読み方を身につける。 ・ 筆者の考えの背景についての知識を確認する。 ・ 言語論に対する考えを理解し、自分の考えを深める。 ・ 目的に合わせた表現方法を理解する。	・ 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している (a) ・ 文章の論理展開についての的確に捉え、要点を把握している (b) ・ 授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)
7 8	列挙の表現方法を学び、正確に文脈を理解しよう 対比の構造	「ものごとことば」(鈴木孝夫) 「ズームアップ どこにも蝶などいない」 「デジタルメ	9	・ 文意を正確につかむ読み方を身につける。 ・ 筆者の考えの背景についての知識を確認する。 ・ 言語論への理解を深める。 ・ 簡潔に要約文を書く方法を理解する。	・ 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している (a) ・ 文章の論理展開についての的確に捉え、要点を把握している (b) ・ 授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)

	を学ぼう 表現②	ディア時代の複製」（竹村政春） 「意見文を書く」		・対比構造を理解し、応用する。 ・対比の構造を用い、意見文を書く。	
9	文末表現に注意をし、主観的な判断か客観的な内容かを判断しよう	「時を編む人間」（田口茂） 「ズームアップ 近代と時間の関係」 「事実なのか 考えなのか」（野矢茂樹）	8	・文意を正確につかむ読み方を身につける。 ・筆者の考えの背景についての知識を確認する。 ・前近代と近代の時間の考え方に對して理解を深める。 ・事実と意見と推測の違いを理解する。	・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を把握する(a) ・文章の種類を踏まえて、内容や構成について叙述を基に的確に捉え、要旨を把握している(b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある(c)
10	認識の枠組みを理解し、文意を読み取ろう 実用文②	「浪費を妨げる社会」（國分功一郎） 「資料を分析して考えをまとめる」	8	・文意を正確につかむ読み方を身につける。 ・筆者の考えの背景についての知識を確認する。 ・資料を分析し、自分の意見を深める。	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している(a) ・文章の論理展開についての的確に捉え、要点を把握している(b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある(c)
11	文意を正確に読み取り、考えを深めよう 表現③	「他者を理解するということ」（鷲田清一） 「論証をする」	8	・文意を正確につかむ読み方を身につける。 ・筆者の考えの背景についての知識を確認する。 ・論証の方法と検証の方法を理解する。	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している(a) ・文章の論理展開についての的確に捉え、要点を把握している(b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある(c)
12	筆者の考えを読み取り、自分の考えを発展させよう	「動物園というメディア」（山本茂行） 「絵を前に思いをめぐらす」（榎木野衣）	8	・文意を正確につかむ読み方を身につける。 ・筆者の考えの背景についての知識を確認する。 ・筆者の考えを参考に、自分の考えをまとめる。	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している(a) ・文章の論理展開についての的確に捉え、要点を把握している(b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある(c)
1	筆者の考えを読み取り、論の進	「動的平衡の回復」（福岡伸一）	6	・文意を正確につかむ読み方を身につける。 ・筆者の考えの背景についての知	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している(a)

	め方を学ぼう	「無痛化する社会のゆくえ」（森岡正博）		識を確認する。 ・筆者の考えを参考に、自分の考えをまとめる。	・文章の論理展開についての的確に捉え、要点を把握している（b） ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある（c）
2	実用文③ 企画書を作成しよう	「文章の構成を工夫して提案する」	6	・グループごとに話し合い、実現可能な企画書を作成し、発表する。	・企画書の作成方法を理解できる（a） ・グループで話し合い、計画・立案の方法を理解し、企画書を作成することができる（b） ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある（c）

令和 7 年度 国 語 科 シラバス

科 目	言語文化	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	1 学年・全クラス
使用教科書	「言語文化」（数研出版）				
補助教材等	「体系古典文法」（数研出版） 「核心古文単語 3 5 1」（尚文出版） 「新明説漢文」（尚文出版）				

1 学習の到達目標

- ①【知識・技能】古典を読むために必要な語彙力・知識を身につけ、本文読解に用いることができる。
- ②【思考・判断・表現】読む・書くといった活動を通して、内容や展開を的確に捉えることができる。また、古人のものの見方や考え方に触れることで、自身の思いや考えを深め、それを適切に表現することができる。
- ③【主体的に学習に取り組む態度】積極的に様々な種類の文章に触れることで、日本語の豊かさを理解し、自らが言語文化の担い手であるという自覚を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 予習として本文を通読し、語句の意味等調べておくようにしてください。不明な箇所は授業内で確認し、復習を必ず行うようにしましょう。
- 授業内で、文法テストや古語テストを行います。すぐに身につくものではありませんので、その都度しっかり学習し覚えるようにしましょう。
- 課題・提出物は期限内に必ず提出しましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	古典や韻文を理解するために必要な語句や文法の知識を身につけ、時代背景や社会を知り古典作品を理解できる。	題材に関して自らの考えをまとめ、発表等を通して他者と共有できる。また、古人の考えを認識することで自己の思考を深めることができる。	言葉を媒介として積極的に古人やその生きた社会を理解しようと努め、自己の感性を豊かなものにしようとしている。
主な評価方法	・ペーパーテスト （事実的な知識の習得を問う問題及び知識の概念的な理解を問う問題）の結果	・ペーパーテスト ・レポート等記述内容 ・グループでの話し合いや発表の場面での観察	・授業中の発言 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容 ・課題への取り組み状況

4 学習及び評価計画

※評価の観点：（a）知識・技能、（b）思考・判断・表現、（c）主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	古文を読むための基礎を身につけよう①	・『宇治拾遺物語』より「児のそら寝」 ・『徒然草』「つれづれなるままに」「神無月のころ」	6	・古典の文章に慣れるとともに、現代に通じる話の面白さや人間描写の巧みさを知る。 ・基本的な文法や語句を習得する。	・文語のきまりを理解できている(a) ・本文中の古語を覚え、意味を捉えることができる(a) ・内容や展開を的確にとらえることができる(b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある(c)
5	古文を読むための基礎を身につけよう②	『徒然草』より「ある人、弓射ることを習ふに」	12	・古典の文章に慣れるとともに、古文における人物造形の面白さを読み取る。 ・基本的な文法や語句を習得する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。	・文語のきまりを理解できている(a) ・本文中の古語を覚え、意味を捉えることができる(a) ・内容や展開を的確にとらえることができる(b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある(c)
6	漢文を読むための基礎を身につけよう① 物語として古文に触れよう。	・「漢文入門」 『戦国策』より「漁夫之利」 『伊勢物語』より「芥川」「東下り」	12	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・基本的な文法や語句を習得する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・作品の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。	・漢文法や文語のきまりを理解できている(a) ・本文中の古語を覚え、意味を捉えることができる(a) ・内容や展開を的確にとらえることができる(b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある(c)
7	漢文を読むための基礎を身につけよう②	『戦国策』より「狐借虎威」 『十八史略』より「先從隗始」	7	・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・基本的な文法や語句を習得する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・戦国時代を背景とした国の状況を知るとともに、郭隗が用いた論理の巧みさを読み解く。	・漢文法や文語のきまりを理解できている(a) ・本文中の古語を覚え、意味を捉えることができる(a) ・内容や展開を的確にとらえることができる(b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある(c)
8 9	小説の読み方を学ぼう	『羅生門』(芥川龍之介)	14	・文学作品の分析や感想を通じて、豊かで適切な表現力を発展させる。	・文学的な用語や修辞手法に関する知識の習得と、それを分析や表

	①	『沖縄の手記から』（田宮虎彦）		せる ・作品内の隠喩や比喩、象徴などの言語的要素を抽出し、その効果を理解することで、表現力を高める ・作品の歴史的、文化的背景を理解する。	現に適用できる (a) ・質問を的確に立て、また他者の質問に的確に回答できる (b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)
10	文学史的な視点で古文に触れよう ①	『土佐日記』より「門出」・「帰京」	12	・我が国最初の日記文学を読んで、記録としての日記とは異なる表現方法と執筆意図を読み解く。文法や語句を習得する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。	・文語のきまりを理解できている (a) ・本文中の古語を覚え、意味を捉えることができる (a) ・内容や展開を的確にとらえることができる (b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)
11	文学史的な視点で古文に触れよう ②	『竹取物語』より「天人の迎へ」 『枕草子』より「ありがたきもの」「雪のいと高う降りたるを」	12	・作品を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・文法や語句を習得する。 ・物語文学と随筆の違いを理解する。	・文語のきまりを理解できている (a) ・本文中の古語を覚え、意味を捉えることができる (a) 内容や展開を的確にとらえることができる (b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)
12	和歌の鑑賞の仕方を理解しよう	『万葉集』・『古今和歌集』・『新古今和歌集』	9	・我が国の伝統文化のひとつである和歌の鑑賞の仕方を理解し、黎明期・発展期・成熟期の、それぞれの特色を捉える。 ・文法や語句、修辞法を習得する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。	・修辞法を理解できている (a) 本文中の古語を覚え、意味を捉えることができる (a) ・内容や展開を的確にとらえることができる (b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)
1	漢詩の鑑賞の仕方を理解しよう 中国の古代思想を学ぼう	「唐詩」（李白、杜甫、王維、白居易） 「論語」	9	・表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・文法や語句、修辞法を習得する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・文章を読み、文意を読み取る力を身につけ、思想内容と日本への影響を理解する。	・修辞法を理解できている (a) ・本文中の語を覚え、意味を捉えることができる (a) ・内容や展開を的確にとらえることができる (b) ・授業内課題の達成度に対して定期的に振り返りを行い、成長への意識を示す態度がある (c)
2	小説の読み	「城の崎に	12	・作品を通じて、登場人物の感情	・本文中の語句や古語を覚え、意

	方を学ぼう ② 文学作品に おける表現 方法を学ぼう	て」(志賀直 哉) 詩歌・短歌・ 俳句 「おくのほそ 道」(松尾芭 蕉)	や物語の核心に迫り、複雑な要素 を理解し感受性を高める。 ・作品が生まれた時代や当時の社 会的・文化的背景に注目し、これ が作品にどのように影響を与えた かを理解する。 ・文法や語句を習得する。 ・作品を読み鑑賞する態度を養 う。	味を捉えることができる(a) ・内容や展開を的確にとらえるこ とができる(b) ・作品を通じて、登場人物の感情 や物語の核心に迫り、複雑な要素 を理解できる。また、韻文では作 品の良さを味わい、鑑賞すること ができる(b) ・授業内課題の達成度に対して定 期的に振り返りを行い、成長への 意識を示す態度がある(c)
--	--	--	---	---

令和 7 年度 地歴公民 科 シラバス

科 目	地理総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	「 高等学校 新地理総合 」（帝国書院）				
補助教材等	「 新編地理資料 」（とうほう） 「 新地理総合ノート 」（とうほう）				

1 学習の到達目標

世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。地理に関わる事象を多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 1 授業で学習した事項は教科書準拠ノートで確認します。
- 2 知識を補充し、技能を高めるため、プリントや資料などを適宜配布します。
- 3 地図帳は必ず持ってくるように。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	○地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組み。○地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。○多面的・多角的な考察や深い理解を通して我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚。
主な評価方法	・定期考査 ・準拠ノートの提出 ・課題の提出	・課題やレポートなどの提出 ・個人及びグループでの発表	・課題やレポートなどの提出 ・個人及びグループでの発表 ・活動の取り組み、振り返り

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	地図と地理情報システム	地球上の位置と時差 図の役割と種類	5	・地球上の位置の違い、時差は私たちの生活とどのように結び付いているのか。 ・地図や地理情報システムにはどのような役割や種類があるのか、また、私たちの生活にどのように役立っているのか考える。	・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。(a) ・地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。(c)
5	結び付きを深める現代世界	・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界	7	・国家の領域や国境はどのように定まっているのか、日本の位置や領域にはどのような特徴があるのか理解する。 ・世界の国々は、貿易や交通、通信、観光などの要素によってどのように結び付いているのか考える。	・国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて理解し表現しようとしている(b) ・通信技術の発達と情報通信技術が生み出す格差について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。(c)
	生活文化の多様性と国際理解	・世界の地形と人々の生活		・人々はこうした地形とどのように関わり合っているのか、そして、世界各地ではどのような	・生活の舞台となる陸地、地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について、

6		・世界 の 気 候 と 人々の生活	8	な生活が営まれているのか理解する。 ・人々の生活はそれぞれの気候要素とどの ように関わり合っているのだろうか。そして、 世界各地ではどのような生活が営まれている のだろうか。	よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課 題を主体的に追究解決しようとしている。(c) ・気候が生活に与える影響、気温のしくみと分 布の特徴、降水のしくみと分布の特徴につい て、よりよい社会の実現を視野にそこでみられ る課題を理解し表現しようとしている。(b)
7	生活文化の多様性と 国際理解	・世界の言語・宗教 と人々の生活	5	・言語や宗教は、人々の生活にどのような影 響を与えているのか理解する。	・言語と民族の関わり、人々の生活への影響を 主体的に追究解決しようとしている。(c)
8 9	生活文化の多様性と 国際理解	・歴 史 的 背 景 と 人々の生活	8	・歴史的な背景は、人々の生活文化にどの ような影響を与えてきたのか理解する。	・生活文化に影響した歴史的背景、冷戦時代 の体制が与える影響を理解している。(a)
10 11	生活文化の多様性と 国際理解 地球的課題と国際協 力		11	・産業の発展は、人々の生活にどのような影 響を与え、産業のグローバル化によって、 人々の生活はどのように変化してきたのか。 ・世界ではどのような地球環境問題がみら れ、どのような取り組みが行われているのだ ろうか。 ・世界の資源やエネルギーの利用の課題 と、持続可能なエネルギーの利用方法につ いて考える。	・世界標準を生み出す ICT 産業、産業構造の 変化とサンベルトの台頭、シェール革命が世界 に与えた影響について、よりよい社会の実現を 視野にそこでみられる課題を主体的に追究、 解決しようとしている。(c) ・地球環境問題の種類、地球環境問題の背景 について、よりよい社会の実現を視野にそこで みられる課題を理解し、主体的に追究、解決し ようとしている。(b)(c)
12	地球的課題と国際協 力	・人口問題 ・食料問題 ・都市・居住問題	6	・世界には、どのような人口問題があり、 どのような対策が行われているのか理解 する。 ・食料需給の偏りが生じる原因と、食料問 題を解決するために必要な取り組みを考 える。 ・世界には、どのような都市・居住問題が あり、どのような対策が行われているのか 理解する。	・世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピ ラミッドからみる国や地域人口の特徴につ いて理解している。(a) ・発展途上国の飢餓の問題、先進国に偏る食 料の問題について、そこでみられる課題を主 体的に追究、解決しようとしている。(c) ・都市の発達、大都市の形成と分布、都市内 部の機能と構造について理解している。(b)
1	自然環境と防災	・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災	6	・日本の地形や気候には、どのような特徴 があるのか理解する。 ・地震や津波による被害と地震や津波に備 えてどのような取り組みが必要なのか考 える。 ・火山がもたらす恵みと、火山災害に備え て、どのような取り組みが必要なのか考 える。	・明瞭な季節変化、降水量の季節変化と地域 差、日本の都市気候を理解している。(a) ・地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被 害について、多面的・多角的に考察し、表現 している。(b) ・火山の分布、火山の恵み、火山災害の特徴 を理解し地理的技能を身に付けている。(a)
2	自然環境と防災	・気象災害と防災 ・自然災害への備 え	6	・気象災害にはどのような種類があり、ど のような被害をもたらすのか。また、気象 災害に備えて、どのような取り組みが必要 なのか考える。 ・災害発生時の危機管理体制は、どのよう に整備されているのか理解する。	・地域で異なる気象災害、都市化による水害 の変化について理解しており、地理的技能を 身に付けている。(a) ・災害の被害を軽減するための取り組み、防 災情報の活用、巨大地震への備えについて、 主体的に追究解決しようとしている。(c)
3	生活圏の調査と地域 の展望	・生活圏の調査と 地域の展望	2	・私たちの生活圏には、多岐にわたる地理 的な課題がみられる。生活圏が抱える課題 を探究するためには、どのような方法で地 域の特徴をとらえ、どのように課題解決の ための展望を見いだしていけばよいのか 考える。	・災害の被害を軽減するための取り組み、防 災情報の活用、巨大地震への備えについて理 解し、地理的技能を身に付けている。(a) ・被害を軽減するために防災情報の活用、巨 大地震への備えについて、主体的に追究、解 決しようとしている。(c)

令和 7 年度 地歴公民科 シラバス

科 目	歴史総合	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	明解 歴史総合（帝国書院）				
補助教材等	明解歴史総合図説シンフォニア（帝国書院）明解歴史総合ノート（帝国書院）				

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に着ける。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○中学校での歴史学習とは異なり、近現代（現在から 400 年前）頃からの歴史を学びます。日本史だけでなく、日本の歴史と相関関係のある国々の歴史も学んでいきます。
○日本史・世界史が主な学習内容となりますが、地理・政治経済の要素も含みます。
○単なる暗記ではなく、自ら考え、理解していく姿勢を求めます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	○資料を適切に読み取ることができる ○近現代の世界史に関わる事象について、日本と関連づけながら適切に説明できる。	○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義・特色などについて、時期・年代・推移、相互の関連や現在とのつながりに着目して考察した内容を、文章や口頭発表などの形で表現できる。	○個人またはグループへ与えられた課題に対して、史料を活用したり他者と意見交流したりしながら主体的に解決を模索することができる
主な評価方法	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 60%	・定期考査 ・提出課題 ・発問評価 ・発表など 20%	・定期考査 ・提出課題 ・授業態度 ・発表など 20%

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	第2部 近代化と 私たち 2章 欧米諸国 における 近代化	上述 の教 材	15	1 イギリスの革命とアメリカの独立 2 フランス革命～ヨーロッパ近代の幕開け 3 フランス革命の影響と国民意識の芽生え 4 産業革命で変わる社会 5 イギリスの繁栄と国際分業体制	①市民社会と国民国家の形成，資本主義社会と国際分業体制確立の経緯について，資料を読み取り，理解している。(a) ②市民革命および産業革命の経緯などから，諸改革の意義と現代社会との関わりを考察し，みずからの言葉で表現している。(b) ③市民革命や産業革命が，現代社会に与え

	3章 近代化の 進展と国 民国家形 成			1 1848年～近代ヨーロッパの転換点 2 イタリア・ドイツの統一とロシアの近代化 3 アメリカの拡大と第2次産業革命 4 帝国主義と世界の一体化	た影響と課題について、追究しようとしている。(c) ①国民国家の展開と帝国主義による世界分割や移民の状況について資料を読み取り、理解している。(a) ②国民国家の形成・発展による対外戦争や差別・抑圧、帝国主義が人類に与えた変化について考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ③国民国家や帝国主義政策が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)
6 7	4章 アジア諸 国の動揺 と日本の 開国 5章 近代化が 進む日本 と東アジ ア	上 述 の 教 材	15	1.「西洋の衝撃」と西アジアの変化 2 南・東南アジアの植民地化 3 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 4 黒船の来航と日本の対応 5 新体制の模索と江戸幕府の滅亡 1 新政府の誕生 2 近代国家を目指す日本 3 日本と清の近代化と日清戦争 4 列強の中国進出と日露戦争 5 日露戦争が与えた影響	①欧米諸国の進出によるアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。(a) ②「西洋の衝撃」の歴史的意義について、アジア諸国の変容を比較したり関連付けたりして考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ③欧米諸国の進出とアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c) ①明治維新とその後の日本の変化やアジア諸国の変容について、資料を読み取り、理解している。(a) ②明治維新の歴史的な意義について、現代の日本への影響と関連付けて考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ③明治維新やアジア諸国の変容が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)
8 9	3部 国際秩序 の変化や 大衆化と 私たち 1章 第一次世 界大戦と 日本の対 応 2章 国際協調 と大衆社 会の広が り	上 述 の 教 材	10	1 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦 3 ロシア革命と大戦の終結 1 ヴェルサイユ体制の成立 2 東アジアの民族自決の行方 3 中東・インドの民族自決の影響 4 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加	①国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について、資料を読み取り、理解している。(a) ②第一次世界大戦の総力戦体制下において、列強の戦闘員・列強の非戦闘員・植民地や従属地域の人々がそれぞれどのような目的で戦争に協力したのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ③勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c) ①ヴェルサイユ体制によって形成された国際秩序と、国際社会や各国に生じた政治・社会・文化の変化について、資料を読み取り、理解している。(a) ②新しい国際秩序と大衆社会の特徴につい

				5 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6 日本における大衆社会の形成	て考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ③ヴェルサイユ体制に基づく国際秩序の成立と、20世紀前半における大衆社会の到来が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)
10 11 12	3章 日本の行方と第二次世界大戦 4章 再出発する世界と日本	上述の教材	20	1 世界恐慌が与えた影響 2 ファシズムの台頭と拡大 3 政党政治の断絶と満洲事変 4 日中戦争の始まり 5 第二次世界大戦の展開 6 戦局の悪化と被害の拡大 7 第二次世界大戦の終結とその惨禍 1 戦後の新たな国際秩序 2 冷戦の始まり 3 日本撤退後の東アジア 4 日本の改革と独立の回復	①世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら、資料を読み取り、理解している。(a) ②ファシズム体制の形成から終戦に至るまで、大衆がなぜ戦争に協力していったのか考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ③世界恐慌後の各国の政治的判断と、大衆の戦争協力が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c) ①冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら資料を読み取り、理解している。(a) ②国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際秩序を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかについて考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ③大戦後に形成された冷戦構造と国際連合による平和維持体制が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)
1 2	4部 グローバル化と私たち 1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界	上述の教材	10	1 アメリカ・ソ連の緊張と緩和 2 冷戦下における日本の復興 3 第三勢力の形成と脱植民地化 4 中東戦争とパレスチナ問題 1 揺らぐアメリカと先進各国の変化 2 「経済大国」日本の模索 3 経済発展に取り組むアジア・南米諸国 4 イスラーム復興と冷戦への影響	①冷戦下の緊張と緩和の経緯と、そのなかでの日本の高度経済成長や、脱植民地化を目指す動きについて、資料を読み取り、理解している。 ②冷戦下の世界と日本の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、みずからの言葉で表現している。 ③冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。 ①冷戦下の1960年代から80年代における各国の選択と経済成長について、資料を読み取り、理解している。(a) ②各国の選択を比較し、「東アジアの奇跡」が起こった要因や世界史における意義について考察し、みずからの言葉で表現している。(b) ③冷戦下における各国の政治的・経済的選択が、現代社会に与えた影響と課題について

	3章 グローバル化のなかの世界と日本		1 冷戦の終結と変わる世界構造 2 冷戦の終結が与えた世界への影響 3 超大国アメリカと中東情勢 4 国際環境の変化と日本 5 グローバル化による国際社会の変容	て追究しようとしている。(c) ①冷戦終結の過程とグローバル化の特質について、資料を読み取り、理解している。(a) ②グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点をみずからの言葉で表現している。(b) ③冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究しようとしている。(c)
--	-----------------------	--	--	---

教 科	数学					
学 年	1	科 目	数学 I		単位数	2
担当者	穂高, 松本, 三村					
教 材	教科書：高等学校 数学 I（数研出版） 問題集：4 プロセス数学 I + A（数研出版）、4 プロセス完成ノート数学 I, A（数研出版） 参考書：チャート式解法と演習数学 I + A（数研出版）					
目 標	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価方法	・定期考査 ・単元テスト ・確認テスト、小テスト		・定期考査 ・単元テスト ・提出レポートの内容 ・問題演習		・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート、プリント、レポート等	
進行計画（学習の内容）					配当時間	
1 学期	数と式	式の計算	1. 多項式の加法と減法		17 時間 (1 学期中間考査)	
			2. 多項式の乗法			
		実数	3. 因数分解			
			4. 実数			
		1次不等式	5. 根号を含む式の計算			
			6. 不等式の性質			
			7. 1次不等式			
			8. 絶対値を含む方程式・不等式			
	集合と命題	集合	1. 集合		15 時間 1 学期期末考査	
		命題	2. 命題と条件 3. 命題と証明			
2次関数	2次関数とグラフ	1. 関数とグラフ				
		2. 2次関数のグラフ				
	2次関数の値の変化	3. 2次関数の最大・最小				
		4. 2次関数の決定				
2 学期	図形と計量	2次方程式と2次不等式	5. 2次方程式			
			6. 2次関数のグラフと x 軸の位置関係			
		三角比	7. 2次不等式			
			1. 三角比			
			2. 三角比の相互関係			
		三角比への応用	3. 三角比の拡張			
			4. 正弦定理			
			5. 余弦定理			
	6. 正弦定理と余弦定理の応用					
	7. 三角形の面積					
データの分析	データの分析	8. 空間図形への応用				
		1. データの整理				
		2. データの代表値				
		3. データの散らばりと四分位数				
		4. 分散と標準偏差				
		5. 2つの変量の間の関係				
3 学期			6. 仮説検定の考え方		8 時間 2 学期末考査	
					0 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意						
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。						
② 「授業」において理解できない部分などは、授業担当者に積極的に質問すること。						
③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習における「復習」は不可欠。						
④ 演習の時間を確保するために授業の進度等が変更になる場合がある。						
⑤ 「完成ノート」等の課題物は、定期的に提出を求める。						
⑥ 確認テストや単元テストを定期的に実施する。						

教 科	数学				
学 年	1	科 目	数学 A	単位数	2
担当者	穂高，松本，三村				
教 材	教科書：高等学校 数学 A（数研出版） 問題集：4 プロセス数学 I + A（数研出版）、4 プロセス完成ノート数学 I，A（数研出版） 参考書：チャート式解法と演習数学 I + A（数研出版）				
目 標	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見だし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見だし，数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	
評価方法	・定期考査 ・単元テスト ・確認テスト、小テスト		・定期考査 ・提出レポートの内容 ・問題演習 ・提出ノートの内容	・授業，学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ノート，プリント，レポート等	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期				0 時間	
2 学期	場合の数と確率	場合の数	1. 集合の要素の個数	32 時間 2 学期期末考査	
			2. 場合の数		
			3. 順列		
			4. 組合せ		
		確率	5. 事象と確率		
			6. 確率の基本性質		
			7. 独立な試行と確率		
			8. 条件付き確率		
			9. 期待値		
3 学期	図形の性質	平面図形	1. 三角形の辺の比	32 時間 学年末考査	
			2. 三角形の外心・内心・重心		
			3. チェバの定理・メネラウスの定理		
			4. 円に内接する四角形		
			5. 円と直線		
			6. 2つの円		
			7. 作図		
		空間図形	8. 直線と平面		
			9. 空間図形と多面体		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。 ② 「授業」において理解できない部分などは，授業担当者に積極的に質問すること。 ③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習においての「復習」は不可欠。 ④ 演習の時間を確保するために授業の進捗等が変更になる場合がある。 ⑤ 「完成ノート」等の課題物は，定期的に提出を求める。 ⑥ 確認テストや単元テストを定期的に実施する。					

教 科	数 学				
学 年	1	科 目	数学Ⅱ	単位数	1
担当者	穂高，松本，三村				
教 材	教科書：高等学校 数学Ⅱ（数研出版） 問題集：4 プロセス数学Ⅱ+B+C（数研出版）、4 プロセス完成ノート数学Ⅱ，B，C（数研出版） 参考書：チャート式解法と演習数学Ⅱ+B+C（数研出版）				
目 標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度		
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価方法	・定期考査 ・単元テスト	・定期考査 ・単元テスト ・提出ノートの内容	・授業、学習活動への取り組み ・課題および提出物の状況 ・単元テスト		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
3 学期	式と証明	式と計算	1. 3次式の展開と因数分解	32 時間 学年末考査	
			2. 二項定理		
			研究 (a+b+c) ² の展開式		
			3. 多項式の割り算		
			4. 分式とその計算		
			5. 恒等式		
			研究 代入による恒等式の係数決定		
	等式・不等式の証明	6. 等式の証明			
		7. 不等式の証明			
		1. 複素数とその計算			
	複素数と方程式	複素数と2次方程式の解	2. 2次方程式の解		
			3. 解と係数の関係・コラム		
			4. 剰余の定理と因数定理		
		高次方程式	研究 組立除法		
			5. 高次方程式		
			発展 3次方程式の解と係数の関係		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
① 「予習」→「授業」→「復習」をのサイクルを心がける。 ② 「授業」において理解できない部分などは、授業担当者に積極的に質問すること。 ③ 問題集及び参考書を用いた家庭学習における「復習」は不可欠。 ④ 演習の時間を確保するために授業の進度等が変更になる場合がある。 ⑤ 「完成ノート」等の課題物は、定期的に提出を求める。 ⑥ 単元テストを定期的実施する。					

教 科	理科				
学 年	1学年	科 目	生物基礎	単位数	2
担当者	奥原、岩崎、土屋、兼山				
達成目標	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
教 材	教科書：高等学校 生物基礎（数研出版） 問題集：新課程版リードLight生物基礎（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度		
	生物や生物現象について、基本的な用語をはじめ、知識の習得や知識の概念的な理解, 実験操作の基本的な技術の習得を身に着けようと	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる。思考・判断し表現力しようとしている。	粘り強く学習に取り組もうとしている。		
主な 評価方法	・ 考查 ・ 課題	・ 考查 ・ 課題	・ 提出物 ・ 課題		
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	生物の特徴	期末考查	20 時間		
2 学期	遺伝子とそのはたらき	中間考查	15 時間		
	ヒトの体内環境の維持	期末考查	15 時間		
3 学期	生物の多様性と生態系	期末考查	20 時間		
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
生物基礎ではキーワードをよく理解し、それを使って生命現象を考えていくことになる。単元毎の課題やリードLightなどを反復して取り組み、必要最低限の知識を身につけてほしい。加えて、グループワークや実験・実習をとおして能動的に生物学を学んでほしい。					

教 科	理科				
学 年	1 学年	科 目	化学基礎	単位数	2
担当者	金井・春日				
達成目標	化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
教 材	教科書：新版 化学基礎（実教出版） 問題集：標準セミナー化学基礎（第一学習社）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	化学や化学現象について、基本的な用語をはじめ、知識の習得や知識の概念的な理解, 実験操作の基本的な技術の習得を身に付けようとしている。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考・判断し表現しようとしている。		粘り強く学習に取り組もうとしている。	
主な評価方法	・ 考査、単元テスト		・ 考査、実験レポート		・ 提出物、課題
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	物質の探究/物質の構成粒子		中間考査	10 時間	
	物質の構成粒子/物質と化学結合		期末考査	10 時間	
2 学期	物質と化学結合		中間考査	15 時間	
	物質と化学反応式		期末考査	15 時間	
3 学期	酸と塩基 酸化還元反応		期末考査	20 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
・教科書を読み込み、化学的なものの見方を身につける。 ・問題集を反復して取り組み、知識と技能の定着に努める。 ・実験・実習・グループワークには、積極的に参加し理解を深め合うこと。					

令和 7 年度 保 健 体 育 科 シラバス

科 目	体育	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	なし				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

① 様々な運動を経験し、各種目に対する技術及び理論を習得する。また、健康の増進と体力の向上を図る。【知識及び技能】
② 運動の楽しさを感じることで生涯にわたってスポーツと関わる力を身につける。 【知識及び技能】
③ 他者と関わりながら体を動かすことに関して、自分の考えを広げたり、表現したりすることができる。【思考力・判断力・表現力】
④ 主体的に参加・運営することで積極的に運動に関わる態度を学ぶ。 【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○運動に積極的に取り組むこと
○他者との関わりを大切にし、お互いでアドバイスをするなどの活動を通してスポーツの楽しさを感じる
○安全に配慮して活動に取り組むこと（装飾品等を身につけない）
○実技科目であるので、出欠席・遅刻・早退状況を重視する
○授業の服装については学校指定のジャージ、シューズの着用を原則とする
○水泳については補充をおこなう
○体育理論は教室での座学とし、知識理解度を評価するためのプリント提出を課す

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・各種目のルールを理解し、運動の特性に応じた技能を身につけられたか。 ・自分及び仲間の安全に留意し実践できるか。	・合理的な練習方法や練習計画の立て方を理解し、知識を身につけることができたか。 ・自己や他者の能力を知り、解決に向け工夫や声かけができていくか。	・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で競技に取り組めたか。 ・積極的に準備や片付けを行い、自分及び仲間の安全に配慮できたか
主な評価方法	・タイム測定 ・実技テスト ・試合の様子	・練習の様子 ・実技テスト ・試合の様子 ・課題への取り組み	・授業へ取り組む姿勢 ・出欠席の状況 ・自己評価（振り返りシート）

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	30 時間	男女共通：体づくり運動 陸上競技 スポーツテスト 男子：ソフトボール／テニス 女子：バレーボール／バドミントン	【ネット型競技】 ・自分の身体や道具を使い、空いているスペースを有効に狙うことができる。また有効なスペースを作り出すことができる。(a) ・狙ったところにシャトルやボールなどをコントロールできている。(a) 【ゴール型競技】 ・空いているスペースを有効に使い、ノーマークを作り出したり効率よくシュートなどが打てたりしている。(a) ・スペースを作り出すための動きができる。(a) ・狙ったところにボールなどをコントロールできている。 【ベースボール型競技】 ・自分の身体や道具を使い、効率よく進塁するためにボールなどをコントロールしている。(a) ・キャッチやスローが正確にできる。(a) 【共通（その他の種目）】 ・課題解決ができ、技能や記録が向上したか。(a) ・運動の特性に応じた技能を身につけられたか。(a) ・ルールを理解できたか。(a) ・合理的な練習方法や練習計画の立て方を考えたり実践したりできたか。(b) ・自己や他者の能力に関心を持ち、課題解決のためにアイデアを出したり工夫したりしたか。(b) ・自分の身体に関心を持ち、苦手な運動であっても上達するために努力をおこなっているか。(c) ・ルールやマナーを含めフェアプレイの精神で各種目に取り組めたか。(c) ・準備片付けに積極的に取り組めたか。(c) ・自分及び仲間の安全に配慮できたか。(c)
2 学期	36 時間	男女共通：水泳 陸上競技 男子：バドミントン／バレーボール サッカー 女子：ソフトボール バレーボール／バドミントン フットサル	
3 学期	30 時間	男女共通：バスケットボール 卓球 体育理論 球技（選択） 男子：サッカー 女子：バレーボール／バドミントン フットサル	

令和 7 年度 保健体育科 シラバス

科 目	保健	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	現代高等保健体育（大修館書店）				
補助教材等	なし				

1 学習の到達目標

① 健康や安全に興味関心を持ち、適切な意思決定・行動選択ができる。【知識及び技能】
② 健康について自分の生活と関連付けて考え、生涯にわたって健康な生活を送るため方法について学ぶことができる。【知識及び技能】
③ 健康についての自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。【思考力・判断力・表現力】
④ 生涯を通じて明るく豊かで活力ある生活を営むことができるようになるために、授業に主体的に取り組むことができる。【主体的に学習に取り組む態度】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○生きていくうえで重要な健康や安全についての内容になるので多面的、発展的な授業も展開されることもある。きちんと知識が身につくように学習すること。
○テストについては、授業中の板書や説明を理解しながら教科書主体で学習することが必要となる。
○グループワーク、ペアワークなどに積極的に参加すること。
○提出物の指示があった場合には、その内容、期限等、担当者の指示に従うこと。
○欠課時数については特に注意すること。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・学習内容を理解し定着させることができたか。 ・新聞、本等で健康に関する社会の情報を得られたか。	・自己に応じた課題を探り、実践に繋げようとしたか。 ・仲間とともに課題解決にむけ、積極的に話し合えたか。	・日常生活における自分及び家族の健康に関心を持てたか。 ・生活習慣の改善等、健康の保持増進に向けて意欲を持てたか。
主な評価方法	・学年末考査 ・グループワークなどの学習活動	・学年末考査 ・グループワークなどの学習活動	・授業態度 ・出欠席の状況 ・課題などの提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	1 0 時間	現代社会と健康 1～7 骨格系・筋肉系	(a) 知識・技能 ・現代社会と健康、安全な社会生活について、それぞれの単元の健康課題について理解することができ、それらの解決方法について考えることができている。 また、必要な知識を身につけることができている。 (b) 思考・判断・表現 ・現代社会と健康、安全な社会生活について、それぞれの単元の健康課題について理解することができ、それらの解決方法についてグループワークやペアワーク、提出物を通し自分の意見を考え、表現することができている。 (c) 主体的に学習に取り組む態度 ・現代社会と健康、安全な社会生活について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 (グループワーク、ペアワーク、提出物など)
2 学期	1 2 時間	現代社会と健康 8～17	
3 学期	1 0 時間	現代社会と健康 18～19 安全な社会生活 1～3	

教 科	芸術				
学 年	1 学年	科 目	音楽 I	単位数	2
担当者	清 住 真 達				
達成目標	音楽の幅広い活動をとおして、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
教 材	Mousa1（教育芸術社）、愛唱歌集、音楽通論など				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	・表現および鑑賞に必要な音楽理論・音楽史を理解できたか。 ・個々の能力に応じた音楽技能を高めることができたか。	・音楽作品の特質をより深く理解し、掘り下げ、それを表現に繋げることができたか。 ・他の生徒の感じ方や考え方を尊重し共有また協調することができたか。		・自ら進んで積極的に課題に取り組むことができたか。 ・自らの課題を設定することができたか。	
主な評価方法	・実技テスト ・楽典小テスト ・授業観察	・課題提出 ・授業観察 ・実技テスト		・課題提出 ・授業観察 ・授業日誌	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	楽典・ソルフェージュ① 発声の基礎・歌唱		中間考査	10 時間	
	楽典・ソルフェージュ② 日本歌曲・簡易な合唱		期末考査	10 時間	
2 学期	楽典・ソルフェージュ③ 音楽史・鑑賞① アンサンブルの基礎		中間考査	15 時間	
	楽典・ソルフェージュ④ イタリア歌曲 ヴァイオリンの基礎		期末考査	15 時間	
3 学期	鑑賞② 日本の伝統音楽・民族音楽		期末考査	10 時間	
	楽典・ソルフェージュまとめ 発展的な合唱			10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
意欲的に取り組む姿勢を大切にする。また実技内容だけでなく、音楽から感じたことを言葉にする力、表現する力、また仲間とともに授業に臨む積極性、音楽に耳を傾ける姿勢を常に持つこと。提出物は必ず出し、持ち物など忘れ物のないようにすること。その他については担当者の指示に従うこと。					

教 科	芸術				
学 年	1	科 目	美術 I	単位数	2
担当者	美術科 樋口史華				
達成目標	美術の学習を通して造形的な見方・考え方を養うとともに、美術文化と創造的に関わる資質・能力を育成する。				
教 材	教科書・スケッチブック・絵画用具用材・各種材料等など				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	材料や用具、技法、様々な美術作品について正しい知識を身につけられたか	課題の趣旨や材料・用具の特性に応じて、創意工夫を凝らしながら作品を制作できたか。また、自分の作品の制作意図や、友人・作家の作品のよさを言葉にすることができるか		美術に関心を持ち、積極的に取り組むことができたか。作品制作において自らの表現を模索しながら最後まで粘り強く取り組むことができたか	
主な評価方法	・ 作品 ・ 練習課題 ・ ワークシート		・ 作品 ・ 発表、鑑賞		・ 振り返りシート ・ 授業態度 ・ 作品の提出状況
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	絵画 作品制作・鑑賞		中間考査なし	10 時間	
	絵画 作品制作・鑑賞		期末考査なし	10 時間	
2 学期	彫刻 作品制作・鑑賞		中間考査なし	15 時間	
	デザイン 作品制作・鑑賞		期末考査なし	15 時間	
3 学期	工芸 作品制作・鑑賞		中間考査なし	10 時間	
	彫刻 作品制作・鑑賞		期末考査なし	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
アートとは「自分だけのものの見方」で世界を見つめ、「自分なりの答え」を生み出し、それを作品として表現することです。ただ作り方を学ぶのではなく「自分だけのものの見方」を試す練習、そして「自分なりの答え」を「作品」として表現する時間だと考えてください。 制作物については、丁寧に作ったか・工夫されているかを重視します。（工夫とは・・・自分で調べる・人に聞く・何度も試す・面白いアイデアを考えるなど）					

教 科	芸術				
学 年	1 学年	科 目	書道 I	単位数	2
担当者	書道担当教諭				
達成目標	書道の幅広い活動を通して、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書を愛好する心情を育て、感性を豊かにする。				
教 材	教科書・プリント・書道用具用材				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	教科書に沿った書の古典学習等を通じて基礎知識を身につけること。用具・用材の特徴を理解し、古典臨書学習を中心に学習しながら基本的な技能を身に付けること。	作品制作を通じ書道理論を学習。古典や現代的表現等、多種多様な選択肢の中から自分らしい書を探してもらうこと。それらを通じて自己表現を確立。		創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	
主な評価方法	・練習課題 ・ワークシート	・作品 ・ワークシート ・発表		・自己評価プリント ・授業態度	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	「書写」と「書道」・書体の変遷・用具の扱い方・執筆法		中間考査	10 時間	
	漢字の書の学習（楷書・行書）臨書を中心に		期末考査	10 時間	
2 学期	漢字の書の学習（篆書）臨書を中心に		中間考査	15 時間	
	姓名印の制作		期末考査	15 時間	
3 学期	仮名の書の学習（臨書）		中間考査	10 時間	
	漢字仮名交じりの書の創作		期末考査	10 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					
単元ごとに提示された作品を仕上げ提出する（指定された期限までに必ず提出できること）。作品完成に至るまでの工夫や、技能的な向上、研究する姿勢も含め総合的に評価する。技術習得ばかりでなく、鑑賞力・着眼点・豊かな発想なども大切にする。自発的な準備や片付けの協力、及び用具等の管理は自分で責任持ってきちんとすること。					

教 科	英語				
学 年	1 学年	科 目	英語コミュニケーション I	単位数	3
担当者	1 学年担当 英語科教諭				
達成目標	日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、話される速度、情報量などにおいて多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み聞きし、話し手や書き手の意図や要点を把握し、基本的な語句や文を用いて論理的に話したり書いたりして他者に伝えることができる。				
教 材	My Way English Communication I (三省堂) My Way English Communication I 準拠WORKBOOK (三省堂) Data Base 3300 基本英単語・熟語 (桐原書店) Keys to Listening 1 (数研出版)				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	さまざまな分野の英文を読解し、英語の構造やその用法を正しく理解し、一定の語彙を習得して適切に使いこなせることができるか。	題材の内容理解を深め、必要な情報や考えなどを把握し、既習した表現を用いて、自分の意見や考えを発信することができるか。		言語能力を身に付けるために、意識的かつ計画的に学習に取り組んでいるか。また、単語学習やリスニング課題等に積極的な態度で臨めるか。	
主な評価方法	・定期考査・確認テスト ・単語テスト ・リスニングテスト ・週末課題 ・パフォーマンステスト	・定期考査・確認テスト ・言語活動への取り組み ・課題提出 ・パフォーマンステスト		・定期考査・確認テスト ・言語活動への取り組み ・課題提出 ・パフォーマンステスト	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	辞書指導 L1 Proverbs Around the World L2 Iwago Mitsuaki-An Animal Photographer L3 Sending Canned Mackerel to Space [Keys to Listening 1 第1回-第3回]		期末考査	30 時間	
2 学期	L4 Messages from Winnie-the-Pooh 夏期休業の課題 L5 Endangered Languages [Keys to Listening 1 第4回-第8回]		中間考査	18 時間	
	L6 A Wheelchair Traveler L7 The Fugees [Keys to Listening 1 第9回-第15回]		期末考査	18 時間	
3 学期	L8 Avatar Robots L9 Kadono Eiko and the Power of Imagination L10 SDGs-Sustainable Development Goals [Keys to Listening 1 第16回-第20回]		期末考査	30 時間	
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意					

- 【学習面】英語は実技科目です。体全体をフル活用して「聞く」「読む」「話す」「書く」を繰り返すことで徐々に成果が現れます。また、英語を通して社会や世界を知り、視野を広げ、人とつながることもできます。教材内容を楽しみながら、粘り強く学習していきましょう。
- 学習習慣を確立するために、1日1時間の復習を継続的に行いましょう！
- 授業は教科書に準拠したワークブックを中心に進めます。
- 自分の分からない語句や表現を確認し、音読学習を中心に楽しみながら英語を学んでください。
- 【テスト】各学期ごとの定期考査に加え、授業内小テスト、単語テスト、パフォーマンステストを実施します。
- 【提出物】①各レッスンのワークブック、ワークシート
②単語書き取り課題：単語テストの結果に応じて
③リスニング課題：『Keys to Listenning』ディクテーション
④長期休業中の課題（夏・冬・春）
⑤週末課題

教 科	英語				
学 年	1 学年	科 目	論理・表現 I	単位数	2
担当者	1 学年担当 英語科教諭				
達成目標	多くの支援を活用すれば、日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を用い、意見・主張・情報・考え・気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して、話したり、文章を書いて伝えることができる。				
教 材	New Favorite English Logic and Expression I（東京書籍） EARTHRISE English Grammar in 22 stages（数研出版） EARTHRISE English Grammar in 22 stages ワークブック（数研出版） EARTHRISE アースライズ総合英語（数研出版） EARTHRISE アースライズ総合英語 暗唱例文集（数研出版）				
評価の観点	以下の観点により総合的に判断して評価する。				
	① 知識・技能	② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度	
	英語の形・意味・用法を正しく理解しているか。学んだ知識を適切に運用し、自分の気持ちや考えを話したり、書いたりする基本的な技能を身につけているか。	場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、自分の考えや気持ちを話したり、書いたりして表現しているか。		自身の活動を振り返りながら、計画的に学習に取り組もうとしているか。また、様々な話題に対して、自分の考えや気持ちなどを話したり、書いたりして伝えようとしているか。	
主な評価方法	・ 定期考査・確認テスト ・ 週末課題 ・ パフォーマンステスト ・ 暗唱例文テスト	・ 定期考査・確認テスト ・ 言語活動への取り組み ・ 課題提出 ・ パフォーマンステスト・		・ 定期考査・確認テスト ・ 言語活動への取り組み ・ 課題提出 ・ パフォーマンステスト ・ 暗唱例文テスト	
進行計画（学習の内容）				配当時間	
1 学期	Unit1 Lesson1 初めての食事 Unit1 Lesson2 道に迷う Unit1 Lesson3 自分紹介 EARTHRISE Lesson1, 2 文の組み立て方 EARTHRISE Lesson3. 4 動詞と時の表し方① （現在・過去）（未来） EARTHRISE Lesson5. 6 動詞と時の表し方② （完了形）		期末考査	16 時間	
2 学期	Unit1 Lesson4 体調が悪い Unit1 Lesson5 買い物 Unit1 Lesson6 行ってみたい場所 〔夏期休業課題〕 Unit1 Lesson7 イベントに誘われる EARTHRISE Lesson7. 8 助動詞 EARTHRISE Lesson9. 10 受動態 EARTHRISE Lesson11 不定詞(1)		中間考査	17 時間	
	Unit1 Lesson8 スクールカウンセラーに相談 Unit1 Lesson9 お気に入りを紹介 Unit1 Lesson10 待ち合わせに遅刻 Unit1 Lesson11 家庭でのディスカッション EARTHRISE Lesson12 不定詞(2) EARTHRISE Lesson13. 14 動名詞 EARTHRISE Lesson15. 16 分詞		期末考査	17 時間	

3 学期	Unit1 Lesson12 英字新聞 Unit2 Lesson1 クラスでディベート EARTHRISE Lesson17. 18. 19 関係詞 EARTHRISE Lesson20. 21 比較 EARTHRISE Lesson22 仮定法	期末考査	20 時間
学習方法・テスト・提出物・持ち物等の注意			
【学習面】 英語は実技科目です。体全体をフル活用して「聞く」「読む」「話す」「書く」を繰り返すことで徐々に成果が現れます。また、英語を通して社会や世界を知り、視野を広げ、人とつながることもできます。教材内容を楽しみながら、粘り強く学習していきましょう。 学習習慣を確立するために、1日1時間の復習を継続的行いましょう！ 定期的にALTが授業に参加します。授業内外でALTにも積極的に話しかけましょう。 【テスト】 各学期ごとの定期考査に加え、授業内小テスト、暗唱例文テスト、パフォーマンステストを実施します。 【提出物】 ①各レッスンのワークブック、ワークシート、パフォーマンステスト評価シート ②長期休業中の課題（夏・冬・春） ③週末課題 【持ち物】 上記教材、高校学習用の辞書、タブレット、ファイル			

令和 7 年度 家 庭 科 シラバス

科 目	家庭基礎	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	1 年
使用教科書	Creative Living「家庭基礎」で生活をつくろう（大修館書店）				
補助教材等					

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力】 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○家庭科の授業では、生涯にわたってよりよい家庭生活を営むため様々な学習活動を行っていきます。授業では主体的に学習に参加してください。 ○被服製作では、基礎的な技術を身に付けるために被服製作作品は必ず完成させ、提出してください。 ○調理実習では、衛生的で安全な調理を心掛けて行います。身支度を整えて参加してください。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生活を主体的に営むために必要な基礎的・基本的な知識と技術が身に付いている。	家庭生活に関わる様々な課題を発見し、思考を働かせながら課題解決に取り組んでいる。	よりよい家庭生活を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている
主な評価方法	・定期考査 ・学習プリント	・定期考査 ・レポート記述内容 ・グループでの話し合いや発表等の場面での観察	・授業中の発言内容やグループワーク、実習等の行動観察 ・振り返りシートの記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	生涯の生活設計	教科書 学習プリント	6	・生涯発達し続ける ・意思決定と生活資源 ・ライフスタイルの選択	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している（a） ・生涯を見通した自己の生活について主体的に考えようとしている（c）

5 6	青年期の課題と自立	教科書 学習プリント	14	・ 青年期の発達課題 ・ 青年期と自立	・ 生涯発達の視点で青年期の課題や家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題について理解している (a) ・ 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、家族の一員として家庭を築くことの重要性について考察している (b)
7 8	経済生活のマネジメント	教科書 学習プリント	12	・ 生活を営むためのお金 ・ 18歳で変わる消費生活 ・ 進むキャッシュレス社会 ・ 消費者トラブルの今 ・ 消費者の自立を支援する	・ 消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解している (a) ・ 自立した消費者として、適切な意思決定に基づいて責任ある消費について考察し工夫しようとしている (b)
9	衣生活のマネジメント	教科書 学習プリント	6	・ 人と被服のかかわり ・ 快適な被服の条件 ・ 健康と安全を守る被服 ・ 資源としての被服	・ ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している (a) ・ 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装について工夫している (b)
10 11			12	・ 被服の材料と性能 ・ 被服製作	・ 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 (a) ・ 被服材料や被服構成について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている (c)
12 1 2	食生活のマネジメント	教科書 学習プリント	14	・ 心と体を満たす食事 ・ 食生活を見直す ・ 栄養バランスのよい食事 ・ 炭水化物の働きと食品の調理性 ・ 脂質の働きと食品の調理性 ・ たんぱく質の働きと食品の調理性 ・ 無機質の働きと食品の調理性 ・ ビタミンの働きと食品の調理性 ・ 食品の選択と購入 ・ 食品の保存と衛生 ・ 持続可能な食生活 ・ 調理実習	・ ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている (a) ・ 食品の調理上の性質や食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている (a) ・ 食品の安全や食品の調理上の性質などを考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫しようとしている (b) ・ 自己や家族の食生活について課題を発見し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている (c)

令和7年度 総合的な探究の時間シラバス

科 目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	1 学年
使用教科書	—				
補助教材等	未来を拓く探究シリーズ 探究ナビ（ベネッセ）、本校作成各種プリント				

1 学習の到達目標

- 1 教科横断的な学習を通じて、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値を理解できるようにする。…【知識及び技能】
- 2 地域や国際社会、実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析して思考し、まとめ・表現できるようにする。…【思考力・判断力・表現力等】
- 3 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、地域社会を支え、未来を創造しようとする態度を育てる。…【学びに向かう力、人間性等】

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 教材は探究学習のテキスト「探究ナビ」（ベネッセ）を主に使用しますが、適宜、本校作成のプリントや ICT 教材なども使用します。学習する具体的な内容や方法は授業ごとに伝えます。
- 内容や進度に応じて、学年全体・クラス・グループなどの単位で活動します。
- 自分の興味・関心、地域の課題、自分の進路にかかわることをテーマにして探究学習を進めます。学習の成果を、就職試験や入学試験に活かすことができます。また、自分の生き方や働き方に対する考えを深めることができます。
- 調査のために校外に出かけることがあります。地域の人たちと交流することもあります。放課後や長期休業などを利用する時もあります。主体性やコミュニケーション力が求められます。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・課題の発見や解決に必要な知識及び技能を身に付けている。 ・探究の意義や価値を理解している。 ・地域社会の現状と課題に対する理解が深まり、問題意識が高まっている。	自分で課題を立て、必要な情報を集め、整理・分析し、思考して解決策を探り、まとめ・表現している。	・探究活動に主体的・協働的に取り組んでいる。 ・自分らしい自己の在り方、生き方を考え、自己実現を図ろうとしている。 ・異なる多様な意見や他者の考えを受け入れ、他者を尊重する価値観が身に付いている。 ・地域社会を支え、未来を創造しようとする態度が身に付いている。
主な評価方法	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・プレゼンやポスターなどでの発表による評価 ・各種レポートや提出物による評価 ・学習到達度を明示したルーブリックでの評価	・学習態度や課題の取り組み状況による評価 ・生徒の自己評価や生徒間での相互評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 ～ 7 月	探究の基礎 を学ぶ。課 題を見つける。 問いを 立てる。調 査方法につ いて学ぶ。	探究ナビ 本校作成教材	12	探究の基礎学習を学び、コミュニケーション能力や情報収集力などの基礎的なスキルの向上と自己理解、他者理解を深める。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。
8 ～ 11 月	課題について の調査、 分析をしながら、 似た探究テーマ についての 仲間を見つける ことで、 探究内容の充 実を図る。	探究ナビ 本校作成教材	14	調査方法が自分の探究テーマに対して妥当なものであるか精査しながら探究活動を進めるとともに、類似の探究テーマを設定している生徒と切磋する機会も設ける。発表の方法についても学び、どのような発表方法であれば自分の探究内容が他者に効果的に伝えることができるかについても演習を通し各自で研究する。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点をもとに評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。
12 ～ 2 月	学年ごとの小発表会 を通して、改 善点を見つけ 内容をさらに 充実させる。 次年度へつな げる、振り返 り。	探究ナビ 本校作成教材	9	学級単位もしくは学年での発表会を通し、意見や質問などを出してもらい、それを踏まえさらに充実した探究となるよう、教員などのアドバイスを受けながら内容の補強を図る。次年度につながる探究計画書も最終的に作成する。	3の学習評価に記述したことをもとに、本校所定の評価ルーブリックを使い、知識技能、思考判断表現、主体性の3観点をもとに評価を行う。評価の場面は精選して行う。適宜生徒による相互評価も評価に含める。